

*平成22年度の講演会・講座について

平成22年度第1回講演会「第1回みんなで考えるひとり生活」を実施しました。

9月11日(土)、かがわ総合リハビリテーション福祉センター第2研修室にて、今年度第1回の講演会を実施しました。

前回の講演会(21年度第2回)でもお世話になった那須宏生さんを改めてひとり生活体験者(講師)としてお迎えし、現在地域

で家族と共に生活している障がい当事者さんたちと、ひとり生活について意見を交換しました。

当日参加して下さった当事者さんは、10代から50代までの7名(男性6名、女性1名)。

最初に那須さんより、ひとり生活をはじめた動機とともに後へ続く参加者へのメッセージが贈られ、その後、意見交換がスタート。途中休憩時間を挟みながらの約1時間を、障害者生活支援センターたかまつのピアカウンセラー、武田佳子さんと大西紀子さんが、司会進行役としてまとめてくれました。



那須さんからのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ひとり生活をはじめるといった動機

親が自分の介護ができなくなったら ・施設には絶対行きたくないと思ったのが正直な気持ち。だったらどうい生活があるのかと考えていたときに、自立生活運動やピアカウンセリングに出会い、24時間ヘルパーを使って生活している人があるんやということを知った。同じ日本、香川の高松でもできんことないやろうという大それた考えを持ってしまって・・・。

参加者に向けて

親も自分も年をとるのだということを考えて、自分で生活する能力を身につけてもらいたい。心構えとして、いつかは一人になるということ ・ヘルパーの手を借りても、ボランティアの手を借りても、自己決定して生活するという心積もりをしてほしい。

自分で自分の生活を作っていくというのは大変なことだけど、そこから何か生まれてくるから。

制度の勉強も大事だけど、とにかく今から経験をするということが大事、失敗を踏まえて、次のステップに積み上げていければいいと思う。



参加者からの発言とまとめ(要旨)・・・・・・・・・・・・・・・・

住居のこと(大家の理解が難しい? 公営住宅が無難か? 改修は?)

「ある不動産会社に親が問い合わせたときは愛想が良かったけど、自分が行ったら断られた。

ハード面で整っていても、障がい者や高齢者にはなかなか貸してくれない。」「車椅子だと、壁が高い。フローリングやスロープの設置、大家の理解が必要。住宅改修の制度を利用しても、足が出ることもある。」「公営住宅には、抽選が当たらないと入れない。」

お金のこと(年金と手当で生活できるか?)

障害基礎年金 1 級と特別障害者手当で一月約 11 万円。時々赤字が出る。足りないところは食費を抑える(1 日 600 円くらい)。外食はしない。贅沢もしない。やっていったら、やれるようになる。

光熱費は季節によって変わる。

ヘルパーにもこまめに切るよう頼む。平均 5~6 千円で、1 万円超えたことはない。国民健康保険の保険料は、単身世帯に

なると保険料を納めないといけない。低所得だと年間 2 万かからないくらい。住宅手当、補助してほしい。

親の存在(親を説得するのが難しい)

「親は自分が何にも出来ないと思っている。だから道をつけたがる。自分も出来ないからイライラする。」

「親も元気な時にはあまり考えていない。」「親の言うこと、以前は 100% 聞いていた。

でも、自分が倒れて(いろいろと無理を重ねていた)からは、20%は聞くけど、80%は聞き流すようにしている。」

ヘルパーとの関係(どの事業所がよいか?)

「一生懸命していても、時間を超えてしまうヘルパーもいる。」「事業所の都合もある。」

「自分はヘルパーに何を求めるのか?お手伝いさんだと思っている人もいる。やることは自分で決める。やることをヘルパーさんに的確に伝えて、自分ができないことをヘルパーさんにしてもらう。

ヘルパーがあればしょうか、これしょうか、は違う。」「あくまで自分が依頼して、ということやな。」

大西さん



武田さん

ピアカウンセラーより.....

今回のような機会を捉えながら、将来の自分の生活をイメージし、体験を重ねる中で、徐々に自分を強くしていくことができればいいですね。経験のある人に話を聞いてもらうのもいいと思います。支援センターたかまつのピアカウンセラーにも、よかったら声をかけてくださいね。

支援センターより.....

「ひとり暮らし、したいなって思う。けど、自分のことで出来ること、もう少し出来ない...、それでも出来ない時は、人の手を借りてって思ってる。いろんな人の意見を参考にしたいと思って来ました。」「親が死ぬまで、今のままでいようと思っている。その時に困ることを、今の内に最小限にしておきたいから...。」参加者さんそれぞれがこんな風に自己紹介をして、はじまった講演会でした。いい雰囲気のまま会は進行し、あっという間に終了時間が来てしまいました。今回参加して下さった皆さんを含め、ひとり生活に興味のある障がい当事者さんのための企画を、これからも支援センターたかまつの事業の中でも考え、応援していきたいと思っています。